

各地の話題 一愛媛県における植物防疫業務の取り組み一

愛媛県病害虫防除所 奈尾 雅浩

愛媛県は四国の西北部に位置し、瀬戸内海沿岸から豊後水道まで総延長1,633kmになる全国第5位の海岸線を持っている。総面積5,677 km²の県土は、西日本最高峰の標高1,981 mの石鎚山を抱き、地勢的には平坦部、盆地、中山間地、島嶼部に分けることができる。本県ではこれらの地勢条件や温暖な気候を生かしカンキツ類を中心に多品目の作物が栽培されている。このため、発生する病害虫種も多く、作物ごとに的確な防除対応が求められている。

本県では、1988年4月に業務推進の効率化、合理化を図るため、それまで設置されていた東予、中予、南予病害虫防除所を1所に統合し、東予支所及び南予支所を設置した。さらに、2008年4月に再編整備を図り、東予支所と南予支所を廃止し南予駐在を置いた。現在の業務は、東予、中予地域が3名、南予地域が2名とその他兼務職員で対応している。

所管事項は、①病害虫の発生予察に関することでは、「農作物有害動植物発生予察事業調査実施基準」に基づき普通作物、果樹、野菜の病害虫の発生予察を実施し、その調査結果を基に毎月の発生予報、必要に応じて注意報、警報、特殊報及び病害虫防除技術情報を作成し、関係機関・団体へ情報提供している。②病害虫の防除指導に関することでは、病害虫の発生状況及び防除技術情報の的確な把握に努め、関係機関・団体との密接な連携により、病害虫の発生生態に応じた効率的・総合的な防除法を指導している。③その他植物防疫に関することでは、新発生病害虫及び難防除病害虫の発生生態と防除対策、薬剤に対する感受性の低下に伴う有効薬剤の探索や防除対策の確立など、試験研究機

関と連携し、地域課題解決のために調査を実施している。また、現場からの病害虫防除に関する電話相談、現物鑑定などの依頼診断にも応じており、2010年度は634件の問題解決に対応した。近年はホームページによる様々な情報提供を行っており、病害虫発生予察情報に加えて、各種病害虫の発生調査データ、話題の病害虫の解説、各種調査成績を公開している。ここに掲載している各種病害虫の発生調査データは、

予察灯・性フェロモントラップ、集合フェロモントラップ・黄色粘着トラップにおける誘殺状況であり、水稻害虫ではイネミズソウムシ、フタオビコヤガ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類、果樹害虫では果樹カメムシ類、野菜害虫ではハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ヨトウガ、カブラヤガ、タバコガ、コナガ、アブラムシ類の発生活動である。さらに、麦類の赤かび病胞子飛散状況、果樹カメムシ類の越冬状況、かんきつかいよう病越冬病斑の発生量、ヤノネカイガラム



麦類赤かび病胞子飛散状況調査
(左下は本菌の子のう胞子)

シ第1, 2世代初発日に関する調査結果を図表化し、関係機関・団体をはじめ、県民にも広く情報提供している。

生産現場では、防除効果の高い薬剤選択と可能な限り少ない防除回数で最大の防除効果を上げる要望が従来よりも高くなってきている。これに加え、野菜類では微小昆虫が媒介するウイルス病が全国的な問題となるなど、難防除病害虫の種類は増加し防除対応が難しくなっている。このため、本県病害虫防除所では的確な病害虫発生予察情報を適期に発信する重要性を今まで以上に認識し、目的意識を持って業務を推進している。